

平成30年度 第57回

農林水産祭



第57回 農林水産祭式典

農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（毎年11月23日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいているいます。

close-up

農林水産祭（通巻 第131号）

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

平成31年3月

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
平成31年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7F
TEL 03(6441) 0791(代) FAX 03(6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>

- 2019.3 -

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第57回 農林水産祭式典

平成30年度（第57回）農林水産祭式典は、勤労感謝の日の平成30年11月23日（金）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約800名の方々が参加して行されました。

式典は、吉川貴盛農林水産大臣の主催者挨拶の後、園芸部門天皇杯受賞者のJA豊橋トマト部会の大竹浩史氏が生産者を代表して、明治神宮総代の清野智氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の祝辞、祝電の披露等が行われました。

農林水産大臣挨拶

農林水産祭式典を挙行するに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、大島衆議院議長、郡司参議院副議長はじめ多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

今年は、大阪北部地震、七月の豪雨、台風二十一号、北海道胆振東部地震などの度重なる災害により、農林水産業にも多大な被害が発生しました。農林水産省といたしましては、被災された農林漁業の方々が一日も早く経営再建できるよう、全力で取り組んでまいります。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るために、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で五十七回目となります。この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会长賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

農林水産業は、国民への食料の安定供給に加え、地域経済、地域社会の活力の維持に大きな役割を果たしています。

人口減少に伴うマーケットの縮小や、農林漁業者の減少・高齢化の進行など、厳しい状況に直面している中で、我が国の農林水産業を将来にわたって維持・発展させるためには、その潜在力を最大限引き出し、若者が夢や希望を託すことができる魅力ある成長産業にしていくことが必要です。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



吉川 貴盛 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》－生産者代表・消費者代表



生産者代表
園芸部門天皇杯受賞
大竹 浩史氏



消費者代表
明治神宮総代
清野 智氏

《選賞審査報告》難波成任農林水産祭中央審査委員会会長

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年8月から本年7月までの1年間に全国各地で開催されました302の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました512点を対象にして、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会长賞の三賞の受賞者を決定致しました。また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会长賞の二賞を選考致しました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは天皇杯受賞の方々について特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の北海道の佐藤忠美さんは、水稻と秋小麦を主体とした40ha規模の家族経営です。栽培期間が短い厳しい環境の中で、水稻の直播栽培を導入し、栽培データに基づく圃場ごとのきめこまかな管理など、独自の高い技術力で高収量を確保するとともに、経費の削減を図ることにより、北海道でトップクラスの高収益経営を実践しています。

園芸部門の愛知県のJA豊橋トマト部会は、収益性が向上できる養液栽培に着目し、研究会を結成して、地元企業と連携しながら環境制御装置などの共同開発を行うとともに、開発した技術を部会内で共有するなど、部会が一体となって養液栽培の普及と技術改良に取り組んできました。こうした取組みの結果、現在、養液栽培の導入率は60%を超え、販売額は大幅に増加しており、その取組みはほかの产地の模範となっております。

畜産部門の熊本県の内ヶ島夫妻は、牛にとって栄養バランスのとれた飼料の設計や、暑さ対策、衛生的な搾乳作業の実現などにより、量を求めるのではなく、高い乳脂肪率など「質で勝負」し、高収益を実現しています。また、堆肥生産技術では、県のコンクールで「堆肥の達人」に認定されています。子ウシにミルクを与えるほ乳ロボットの導入や酪農ヘルパーの利用による、ゆとりある堅実な経営は、地域のモデルとなるものです。

林産部門の三重県の速水夫妻は、持続可能な森林経営を目標に環境配慮型林業の国際的基準を有する森林認証を日本で最初に取得し、国内におけるその後の認証の普及に貢献しました。また、高性能林業機械の導入による生産性の向上や、ポット苗生産、選抜育種の技術確立による育林コストの低減などに取り組み、その成果を多方面に普及啓発してきた日本有数の林業家です。

水産部門の静岡県の有限会社西尾商店は、いわし削り節を初め、様々な削り節を製造・販売するとともに、消費者向けに「だし」の魅力を伝える体験プログラムを実施するなど「だし文化」を広く発信する取組みを行ってきました。また、受賞された「いわし削り節」は、独自に開発し、念入りに調整した切削工程により製造され、ふんわりとした食感と良好な風味が高く評価されました。

多角化経営部門の京都府の「こと京都株式会社」は、少量多品目栽培の家族経営から九条ネギに絞った経営に転換するとともにカット加工と販路拡大に取り組み、現在は150名を雇用する経営体へと成長しています。需要者のニーズに対応したきめ細かな加工、生産者の組織化、九条ネギのブランド化などにより、農家収入の安定化、地域の雇用創出を図り、経営の多角化のモデルケースとなっています。

最後に、むらづくり部門の岩手県の「本寺地区地域づくり推進協議会」は、かつて中尊寺の莊園であった歴史的な景観を活かすため、地元での議論を経て、曲がりくねった畦畔を残すなど景観保全を重視した農地整備を行いました。また、莊園米オーナー制度や在来カボチャを特産品化する取組み、さらには、協議会の女性が主体となって莊園交流館を拠点に、郷土料理レストランの運営を行うほか、伝統芸能の伝承や都市農村交流に取り組むなど地域の活性化を図っています。

また、「女性の活躍」につきましては、お二方がそれぞれの部門においても高く評価され、三賞を重複して受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げるとともに、こうした方々の先進的な取組みが全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 難波 成任氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し吉川貴盛農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会长から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、吉川農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会长賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会长賞受賞者



表彰の様子

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会长賞の授与後に、内閣総理大臣安倍晋三様からのメッセージと衆議院議長大島理森様、参議院副議長郡司彰様からご祝辞を頂きました。また、ご出席の国会議員や多数の祝電のご紹介をいたしました。



大島 理森 衆議院議長 郡司 彰 参議院副議長

大臣と三賞受賞者との懇談会

式典終了後大臣懇談会が行われ、天皇杯等三賞受賞者は、吉川農林水産大臣ほか農林水産省幹部、林日本農林漁業振興会会长、中家理事長ほか同役員、難波中央審査委員会会长ほか各分科会主査等から、温かい祝福の言葉を受け和やかに懇談されました。

中家 徹
(公財) 日本農林漁業振興会 理事長

天皇杯等三賞の選賞

平成30年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会长賞）の選賞審査は、8月1日に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。平成29年8月から平成30年7月にかけて全国で開催された農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者512人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月18日の中央審査委員会第2回総会において、決定されるとともに、同日農林水産省ホームページ等で公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部 門	出品財	受賞者		表彰行事
			住 所	氏 名 等	
天 皇 杯	農産・蚕糸	経 営 (水稻・秋小麦)	北海道 雨竜郡妹背牛町	佐藤 忠美	第47回日本農業賞
	園 芸	経 営 (トマト)	愛知県豊橋市	J A 豊橋トマト部会 (代表 大竹 浩史)	第47回日本農業賞
	畜 産	経 営 (酪農)	熊本県山鹿市	内ヶ島 賢勇* 内ヶ島 美津代*	平成29年度熊本県農業コンクール大会
	林 産	経 営 (林業)	三重県 北牟婁郡紀北町	速水 亨* 速水 紫乃*	全国林業経営推奨行事
	水 産	产 物 (水産加工品)	静岡県静岡市	有限会社西尾商店 (代表 西尾 公伸)	第64回全国水産加工たべもの展
	多角化経営	経 営 (ねぎ)	京都府京都市	こと京都株式会社 (代表 山田 敏之)	平成29年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり 活動	岩手県一関市	本寺地区地域づくり推進協議会 (代表 佐々木 勝志)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
内 閣 総 理 大 臣 賞	農産・蚕糸	経 営 (茶)	鹿児島県南九州市	有限会社小磯製茶 (代表 小磯 雅一)	平成29年度全国優良経営体表彰
	園 芸	経 営 (多肉植物)	静岡県浜松市	株式会社カクト・ロコ (代表 野末 信子)	平成29年度農山漁村女性活躍表彰
	畜 産	経 営 (肉用牛一貫)	長野県東御市	峯村 誠太郎* 峯村 伊世*	平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林 産	产 物 (木炭)	岩手県久慈市	谷地 司	平成29年度岩手県木炭品評会
	水 産	产 物 (水産加工品)	静岡県焼津市	焼津冷蔵株式会社 (代表 原崎 太輔)	第15回静岡県水産加工品総合品評会
	多角化経営	経 営 (在来作物)	奈良県奈良市	プロジェクト栗 (代表 三浦 雅之)	第47回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり 活動	岐阜県 加茂郡白川町	特定非営利活動法人 ゆうきハートネット (代表 佐伯 薫)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
日本農林漁業振興会会长賞	女性の活躍	女性の活躍 (多肉植物)	静岡県浜松市	株式会社カクト・ロコ (代表 野末 信子)	平成29年度農山漁村女性活躍表彰
	農産・蚕糸	経 営 (麦類)	愛知県岡崎市	二村 誓也	平成29年度全国麦作共励会
	園 芸	経 営 (とうとう・西洋なし・りんご)	山形県東根市	株式会社太陽のおりもの 齊藤果樹園 (代表 齊藤 雄一郎)	第19回全国果樹技術・経営コンクール
	畜 産	経 営 (養豚)	山形県鶴岡市	株式会社五十嵐ファーム (代表 五十嵐 一春)	平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林 産	产 物 (木材)	岡山県真庭市	山下木材株式会社製材工場 (代表 山下 豊)	第45回JAS製品普及推進展示会
	水 産	経 営 (水産業)	熊本県天草市	益田 沙央里	平成29年度農山漁村女性活躍表彰
	多角化経営	経 営 (野菜・農産加工)	沖縄県 国頭郡今帰仁村	株式会社あいあいファーム (代表 木村 修)	平成29年6次産業化優良事例表彰
女性の活躍	むらづくり	むらづくり 活動	鹿児島県 薩摩郡さつま町	中津川区公民館 (代表 丸口 憲一)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
	女性の活躍	女性の活躍 (水産業)	熊本県天草市	益田 沙央里	平成29年度農山漁村女性活躍表彰

(注1) 氏名等欄の*は、夫婦連名での受賞である。

(注2) 「女性の活躍」については、それぞれ園芸部門における内閣総理大臣賞、水産部門における日本農林漁業振興会会长賞との重複受賞である。

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

平成30年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門ぞれぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、平成31年1月18日（金）皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、難波成任中央審査委員会会長及び別所智博農林水産大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者ご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご質問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



多角化経営部門の業績説明



むらづくり部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拝謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿、中庭、二重橋、道灌堀、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、特別参観後には皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念写真

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。
2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共に農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。
3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の行事において農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。

